

令和3年度

—千葉県—

君津市内遺跡発掘調査報告書

堀の腰遺跡

山王下遺跡2

令和4年3月

君津市教育委員会

令和3年度

—千葉県—

君津市内遺跡発掘調査報告書

ほりのこし
堀の腰遺跡
さんのうした
山王下遺跡2

令和4年3月

君津市教育委員会

序 文

豊かな自然が多く残る君津市には、数多くの遺跡が所在しております。先人たちの生活の痕跡は、様々な歴史を物語ってくれます。これらの貴重な文化財を有効に活用し、後世へと伝えてゆくことが、現代に生きる我々に課せられた使命なのだと思います。

しかしながら、各種事業による開発に伴い遺跡が破壊されてしまうことがあります。その場合は、発掘調査を実施して「記録保存」という手段を講じているのが現状であります。

本報告書は、国庫並びに県費補助により令和3年度に実施した君津市内遺跡発掘調査の成果をまとめた報告書です。対象となった遺跡は、縄文時代、古墳時代の包蔵地である堀の腰遺跡、古墳時代の包蔵地である山王下遺跡の2遺跡であります。

本書が学術資料、教育資料として活用されるとともに、市民をはじめ多くの皆様の目にとまり、遺跡というものがごく身近にも存在しているのだということを認識していただく契機となり、埋蔵文化財の保護を推進することができましたならば幸いです。

結びに、ご指導・ご助言いただきました千葉県教育庁教育振興部文化財課、発掘調査・整理作業に従事した調査補助員の方々、ご協力をいただいた地域の方々、関係者の皆様に対しまして、心から感謝の意を表します。

令和4年3月

君津市教育委員会
教育長 粕谷 哲也

例 言

- 1 本書は、令和3年度調査実施の千葉県君津市戸崎 2612 番 48 に所在する堀の腰遺跡、千葉県三田 420 番 1、419・420 番 2 合併 1 に所在する山王下遺跡 2 の成果を収録した、令和3年度君津市内遺跡発掘調査報告書である。
- 2 調査は、国庫・県費補助事業として千葉県教育委員会の指導のもと、君津市教育委員会が実施した。
- 3 発掘調査・整理作業期間は以下のとおりである。

堀の腰遺跡	(確認調査)	令和3年12月13日
	(本調査)	令和3年12月15日～令和4年1月12日
山王下遺跡 2	(確認調査)	令和4年1月17日～同年1月21日
	(本調査)	令和4年1月31日～同年2月10日
整理作業		令和4年2月1日～同年3月18日
- 4 発掘調査・整理作業・原稿執筆は、曾我真実子が担当した。
- 5 発掘調査で使用した遺跡コードは、堀の腰遺跡：K T 084、山王下遺跡：K T 083 である。なお、遺物注記の際には、コードの次に調査地点を付した（例：K T 083- 2）。
- 6 遺構・遺物の縮尺は各実測図に明記した。方位は座標北であり、測量値は世界測地系による。
- 7 今回の調査に伴う遺物・図面・写真等の記録類は、君津市教育委員会で保管する。
- 8 調査組織は下記のとおりである。

《君津市教育委員会》

教育長：粕谷哲也

教育部長：安部吉司

生涯学習文化課長：塚越直美 副主幹（事）文化振興係長：當眞紀子

（再）主査：矢野淳一 文化財主事：朝倉 唯 文化財主事：曾我真実子
- 9 発掘調査から本書の刊行にいたるまで、千葉県教育委員会をはじめとする関係諸機関の方々からご指導・ご協力をいただいた。記して感謝の意を表したい。

凡 例

- 1 本書で使用した地形図は、第1図 地形図「久留里」（1：25,000）国土地理院発行、第2図 君津市地形図 3（1：10,000）君津市発行、第5図 地形図「久留里・上総横田」（1：25,000）国土地理院発行、第6図 君津市地形図「K-4」（1：2,500）君津市発行である。
- 2 本文中に記載した遺構の重複関係は（旧）→（新）の順に記載した。

目 次

序 文・例 言・凡 例

第 1 章 堀の腰遺跡	1
第 2 章 山王下遺跡 2	9

挿図目次

第 1 図 堀の腰遺跡周辺の遺跡	2	第 6 図 山王下遺跡 2 調査区位置図	11
第 2 図 堀の腰遺跡調査区位置図及び基本土層図	4	第 7 図 山王下遺跡 2 基本土層図	12
第 3 図 堀の腰遺跡確認トレンチ配置図	5	第 8 図 山王下遺跡 2 確認トレンチ配置図	13
第 4 図 堀の腰遺跡遺構及び出土遺物実測図	7	第 9 図 山王下遺跡 2 遺構実測図	14
第 5 図 山王下遺跡 2 周辺の遺跡	10	第 10 図 山王下遺跡 2 出土遺物実測図	16

図版目次

図版 1 堀の腰遺跡
図版 2 山王下遺跡 2

第1章 堀の腰遺跡

1 調査にいたる経緯

令和3年11月30日付けで、個人申請者より文化財保護法第93条に基づく「埋蔵文化財発掘の届出について」の提出があった。開発目的は個人住宅建設で、開発予定面積は496㎡である。開発区域は「周知の埋蔵文化財包蔵地内（堀の腰遺跡）」で、開発着手前に確認調査を実施する必要がある旨を事業者に説明した。協議の結果、計画どおり事業を行うことになり、遺跡の規模及び性格を把握するための確認調査を実施することとした。確認調査は、令和3年12月13日に君津市教育委員会で行った。

確認調査の結果、古墳時代土坑などが検出されたため、事業者と市教育委員会生涯学習文化課とで再度協議を行い、埋蔵文化財をどうしても保存することができない19.15㎡について、本調査を行うこととした。本調査は、令和3年12月15日から令和4年1月12日まで行った。なお、調査はすべて君津市教育委員会で行った。

2 地理的・歴史的環境（第1図）

堀の腰遺跡は、君津市戸崎に所在し、JR久留里線小櫃駅の南西約2.2km地点にある。小櫃川中流域左岸に形成された河岸段丘上に位置し、標高は約60m前後である。

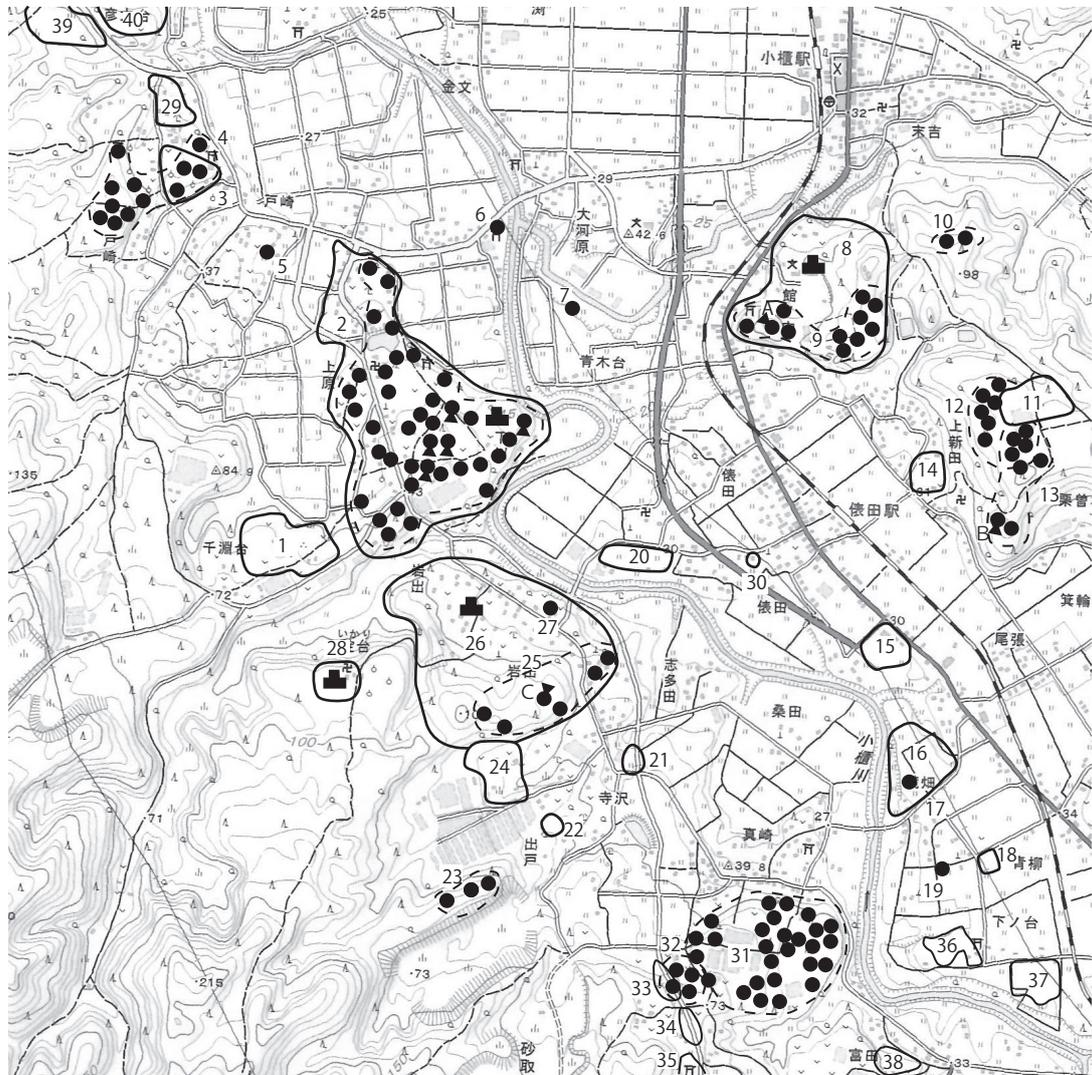
発掘調査がされた周辺の遺跡をみると、39. 戸崎陣屋前遺跡⁽¹⁾では古墳時代中期の竪穴住居跡（以下住居跡）7軒・溝跡1条が確認されており、石製模造品などが出土している。26. 岩出遺跡⁽²⁾では縄文時代前期の住居跡3軒、弥生時代後期の住居跡3軒、古墳時代後期から平安時代にかけての住居跡21軒が検出された。21. 野中遺跡⁽³⁾では古墳時代後期の住居跡7軒が検出されている。22. 寺沢出戸遺跡⁽⁴⁾では古墳時代前期の住居跡1軒、古墳時代後期の住居跡15軒、平安時代の住居跡1軒が検出されている。2. 戸崎城山遺跡⁽⁵⁾は、縄文時代から古墳時代にかけての包蔵地と前方後円墳6基を含む100基以上で構成される戸崎古墳群、そして中世に築城された戸崎城跡を包括する複合遺跡で、各種開発により31回の調査が実施されている。これまでの調査では、弥生時代の方形周溝墓、古墳時代中期、奈良時代の住居跡、平安時代の方形区画溝・溝状遺構、中世の土坑墓を検出している。古墳は、35基の調査が実施され、多くは6世紀代の後期古墳であることが分かった。また、小櫃地区には、多くの古墳が群集して分布しており、小櫃地区だけで総数350基以上が確認されている。

堀の腰遺跡は、縄文時代と古墳時代の包蔵地として周知の遺跡であるが、今回は初調査のため、詳細は不明である。

註 (1) 『年報 No. 15』1998 財団法人君津郡市文化財センター

(2) 『君津市岩出遺跡・岩出城跡』1986 財団法人千葉県文化財センター

(3) 『年報 No. 4』1986 財団法人君津郡市文化財センター



- | | | | | |
|---------------|-----------------|------------|-------------|-------------|
| 1. 堀の腰遺跡 | 2. 戸崎城山遺跡・戸崎古墳群 | 3. 追場遺跡 | 4. 峯古墳群 | 5. 下台古墳 |
| 6. 森下古墳 | 7. 芝塚 | 8. 館ノ内城跡 | 9. 白山神社古墳群 | 10. 長谷川古墳群 |
| 11. 上原遺跡 | 12. 上新田塚群 | 13. 上新田古墳群 | 14. 前畑遺跡 | 15. 上新田張山遺跡 |
| 16. 青柳向台遺跡 | 17. 向台塚 | 18. 青柳下原遺跡 | 19. 鏡畑塚 | 20. 俵田山王松遺跡 |
| 21. 野中遺跡 | 22. 寺沢出戸遺跡 | 23. 出戸古墳群 | 24. 寺沢遺跡 | 25. 岩出古墳群 |
| 26. 岩出遺跡・岩出城跡 | 27. 念仏塚古墳 | 28. 碓台館跡 | 29. 峯遺跡 | 30. 俵田荒久遺跡 |
| 31. 瓜倉原古墳群 | 32. 国光古墳群 | 33. 国光遺跡 | 34. 上ノ山遺跡 | 35. 菩提遺跡 |
| 36. 青柳宮ノ前遺跡 | 37. 青柳西の前遺跡 | 38. 富田田面遺跡 | 39. 戸崎陣屋前遺跡 | 40. 陣屋台遺跡 |
| A. 白山神社古墳 | B. 浅間神社古墳 | C. 飯籠塚古墳 | | |

第1図 堀の腰遺跡周辺の遺跡 (1 : 25,000)

(4) 『寺沢出戸遺跡』1998 財団法人君津都市文化財センター

『平成20年度君津市内遺跡発掘調査報告書』2009 君津市教育委員会

(5) 『祝崎古墳群／戸崎城山遺跡発掘調査報告書』1984 財団法人君津都市文化財センター

『平成2年度君津市内遺跡発掘調査報告書』1991 君津市教育委員会

『戸崎城山遺跡C地点』1993 財団法人君津都市文化財センター

『平成4年度君津市内遺跡発掘調査報告書』1993 君津市教育委員会

『千葉県文化財センター年報 No. 19-平成5年度-』1994 財団法人千葉県文化財センター

『平成5年度君津市内遺跡発掘調査報告書』1994 君津市教育委員会
『戸崎城山遺跡M地点』1994 財団法人君津郡市文化財センター
『平成6年度君津市内遺跡発掘調査報告書』1995 君津市教育委員会
『平成7年度君津市内遺跡発掘調査報告書』1996 君津市教育委員会
『平成8年度君津市内遺跡発掘調査報告書』1997 君津市教育委員会
『平成12年度君津市内遺跡発掘調査報告書』2001 君津市教育委員会
『平成15年度君津市内遺跡発掘調査報告書』2004 君津市教育委員会
『平成16年度君津市内遺跡発掘調査報告書』2005 君津市教育委員会
『平成17年度君津市内遺跡発掘調査報告書』2006 君津市教育委員会
『平成19年度君津市内遺跡発掘調査報告書』2008 君津市教育委員会
『戸崎城山遺跡Y地点』2008 君津市建設部・君津市教育委員会
『平成21年度君津市内遺跡発掘調査報告書』2010 君津市教育委員会
『平成23年度君津市内遺跡発掘調査報告書』2012 君津市教育委員会
『戸崎城山遺跡28地点』2013 君津市教育委員会
『平成28年度君津市内遺跡発掘調査報告書』2017 君津市教育委員会
『令和元年度君津市内遺跡発掘調査報告書』2020 君津市教育委員会

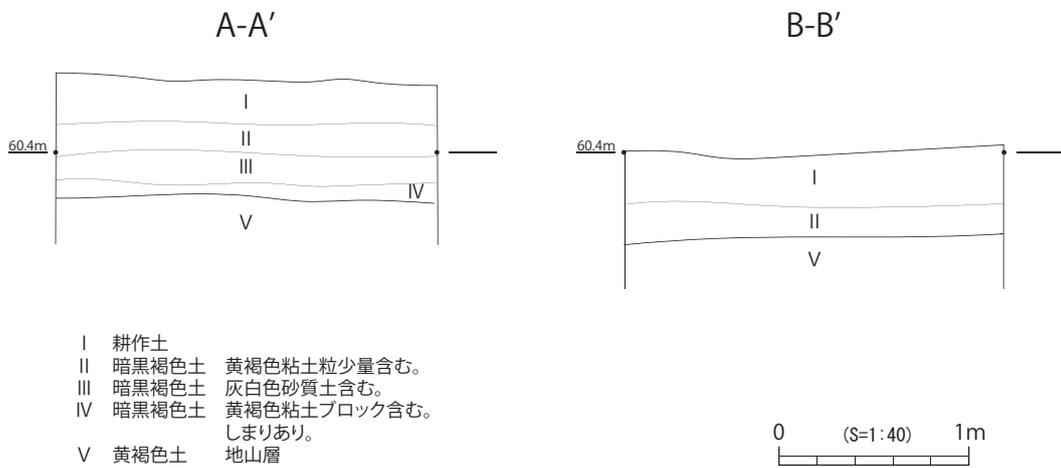
参考文献

『千葉県埋蔵文化財分布地図（4）－君津・夷隅・安房地区（改訂版）－』2000 千葉県教育委員会

3 調査の方法（第2・3図）

確認調査は対象地内における遺構の分布と種別を把握するために、対象地496㎡にトレンチを4本設定した。調査区域の現状は畑地である。調査を実施するにあたり、公共座標に基づく基準点測量は専門業者が行い、この杭を用いて現地での平面図・断面図等の実測作業を行った。写真撮影は小型(35mm)カメラを使用し、カラーリバーサルフィルムを使用した。遺構確認面までの表土を重機で除去した後、鋤簾を用いて人力により遺構検出作業を行った。基本層序は、3T西壁(A-A')と2T北壁(B-B')で確認し、現地表面から確認面までは0.4～0.8mである。地山層は黄褐色土(V層)である。遺構検出作業時に出土した遺物は、トレンチ一括で取り上げた。

調査の結果、弥生時代及び古墳時代の土坑が検出されたため、事業者と市教育委員会生涯学習文化課とで再度協議を行い、埋蔵文化財をどうしても保存することができない19.15㎡の本調査を行うこととした。遺構確認面までの表土は重機により除去し、遺構検出作業と覆土の掘り下げは人力で行った。出土した遺物は遺構ごとに取り上げた。写真撮影は小型(35mm)カメラを使用し、カラーリバーサルフィルムを使用した。調査終了後は重機により排土を埋め戻して原状復帰し、現地作業を終了した。

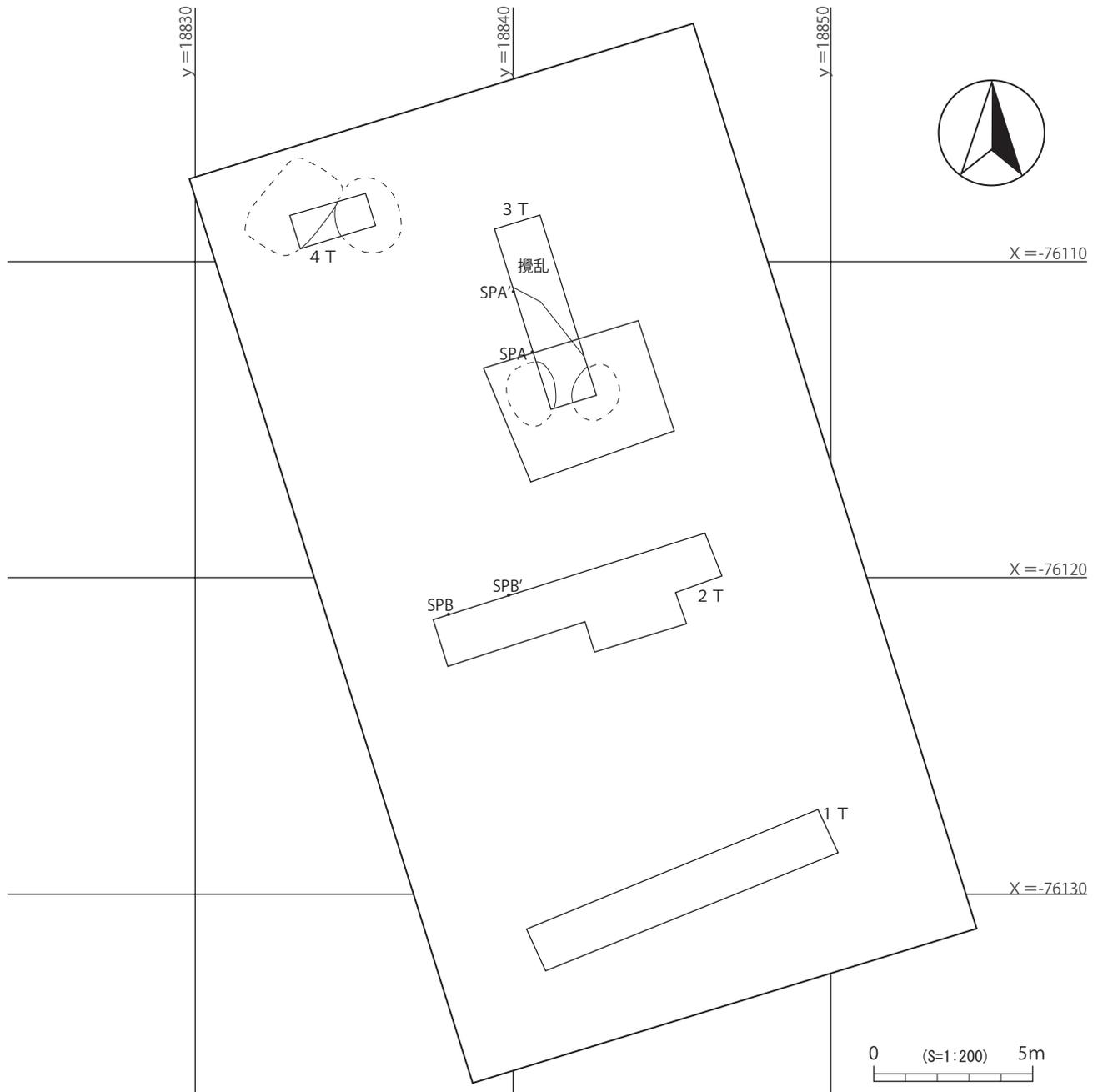


第2図 堀の腰遺跡調査区位置図 (1:5,000) 及び基本土層図

4 検出した遺構と遺物

確認調査（第3図）

- 1 T 遺構確認面までの深さは、0.8 mである。遺構は検出されなかった。
- 2 T 遺構確認面までの深さは、0.4 mである。遺構は検出されなかった。
- 3 T 遺構確認面までの深さは、0.4 mである。弥生時代土坑 1 基、古墳時代土坑 1 基を検出した。
- 4 T 遺構確認面までの深さは、0.4 mである。弥生時代土坑 1 基、古墳時代土坑 1 基を検出した。



第3図 堀の腰遺跡確認トレンチ配置図

本調査（第4図）

土坑

SK-001

重複関係 SK-002 → SK-001

規模・形態・構造 検出部分の長軸1.8m、検出部分の短軸1.0m、深さ0.55m。平面形は方形が推定できる。断面形は逆台形状である。

遺物 小片のため図示し得るものはない。

SK-002

重複関係 SK-002 → SK-001

規模・形態・構造 検出部分の半径1.2m、深さ0.45m。平面形は円形が推定できる。断面形は逆台形状である。

遺物 小片のため図示し得るものはない。

SK-003

重複関係 なし

規模・形態・構造 長軸1.1m、短軸0.8m、深さ0.25m。平面形は長方形である。断面形は逆台形状である。

遺物 小片のため図示し得るものはない。

SK-004

重複関係 なし

規模・形態・構造 直径0.9～1.0m、深さ0.35m。平面形は不整な円形である。断面形は逆台形状である。

遺物 小片のため図示し得るものはない。

ピット

P-1

重複関係 なし

規模・形態・構造 直径0.5～0.55m、深さ0.17m。平面形は楕円形である。断面形は皿状である。

遺物 小片のため図示し得るものはない。

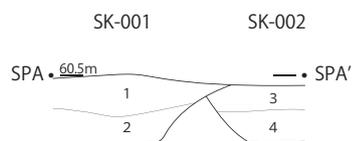
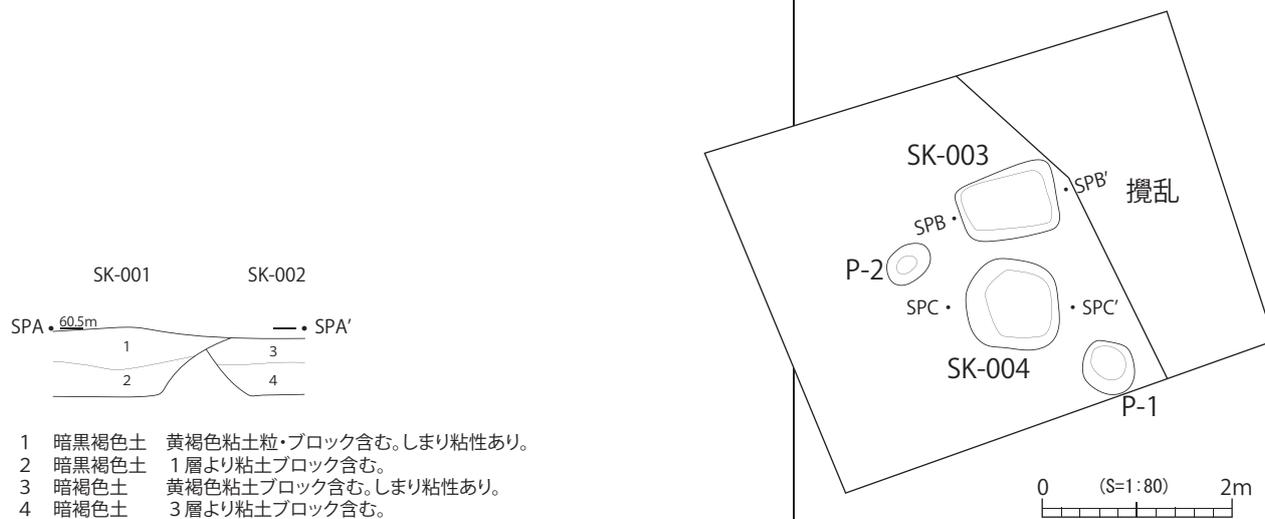
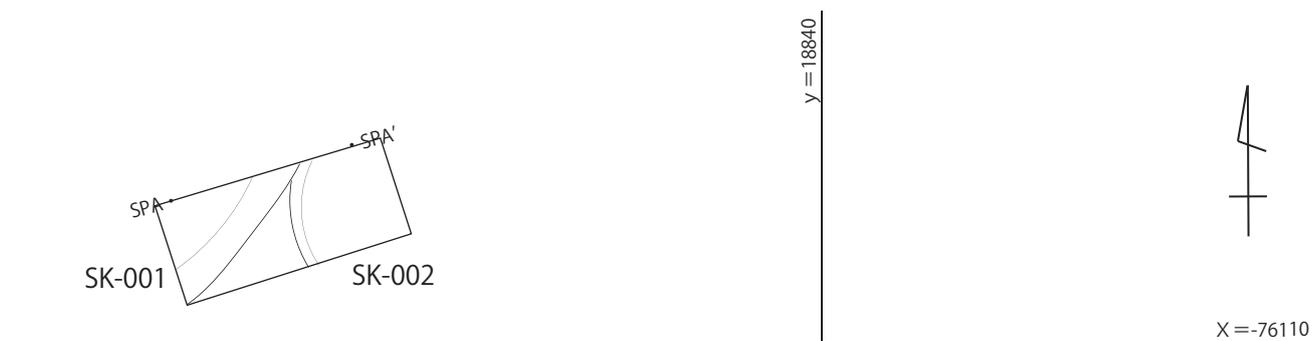
P-2

重複関係 なし

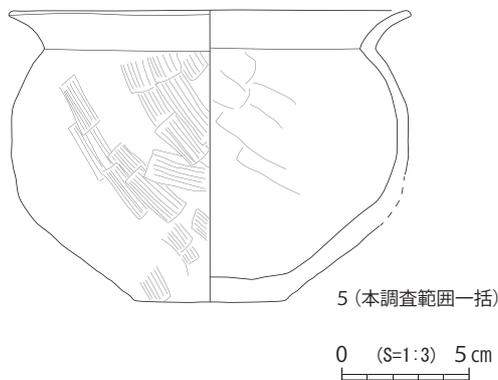
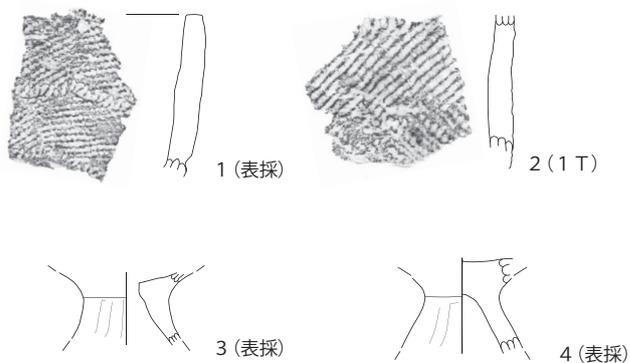
規模・形態・構造 長軸0.38m、短軸0.2m、深さ0.2m。平面形は楕円形である。断面形は皿状である。

出土遺物（第4図）

1・2は縄文土器である。1は鉢の口縁部片で外面斜縄文を施す。2は胴部片で外面斜縄文を施す。3は土師器器台で接合部のみの遺存である。遺存高3.0cm。調整は内面ナデ、中央に穿孔。外面ヘラミガキ。焼成は良好。色調は内面橙色、外面明黄褐色。胎土は黒色粒、小石を含む。4は土師器高坏で接合部のみの遺存である。遺存高3.7cm。調整は内面ナデ。外面ヘラミガキ。焼成は良好。色調はにぶい黄橙色。胎土は白色粒、赤色粒を含む。5は土師器小甕で1/3の遺存である。復元口径15.7cm、復元底径5.8cm、器高11.6cm。調整は内面ヘラナデ。外面ハケ状工具でナデ。焼成はやや良好。色調は橙色。胎土は細かく砂粒、黒色粒、雲母を含む。



- 1 暗黒褐色土 黄褐色粘土粒・ブロック含む。しまり粘性あり。
- 2 暗黒褐色土 1層より粘土ブロック含む。
- 3 暗褐色土 黄褐色粘土ブロック含む。しまり粘性あり。
- 4 暗褐色土 3層より粘土ブロック含む。



第4図 堀の腰遺跡遺構及び出土遺物実測図

5 まとめ

縄文時代と古墳時代の周知の遺跡とされていた当遺跡であるが、既存の踏査成果のとおり当該時期の遺構・遺物を検出した。また、小片のため図示していないが棒状浮文をもつ弥生土器片も出土した。これまで確認されていなかった弥生時代の遺物も検出したことから、近接地にある戸崎城山遺跡と同様の時代であることが判明した。今後の調査で当遺跡の内容が更に得られることを期待したい。

第2章 山王下遺跡2

1 調査にいたる経緯

令和3年11月30日付けで、個人申請者より文化財保護法第93条に基づく「埋蔵文化財発掘の届出について」の提出があった。開発目的は個人住宅建設で、開発予定面積は569.28㎡である。開発区域は「周知の埋蔵文化財包蔵地内（山王下遺跡）」で、開発着手前に確認調査を実施する必要がある旨を事業者の説明した。協議の結果、計画どおり事業を行うことになり、遺跡の規模及び性格を把握するための確認調査を実施することとした。確認調査は、令和4年1月17日から同年1月21日まで、君津市教育委員会で行った。

確認調査の結果、弥生時代溝跡・土坑、古墳時代土坑などが検出されたため、事業者と市教育委員会生涯学習文化課とで再度協議を行い、埋蔵文化財をどうしても保存することができない67.9㎡について、本調査を行うこととした。本調査は、令和4年1月31日から同年2月10日まで行った。なお、調査はすべて君津市教育委員会で行った。

2 地理的・歴史的環境（第5図）

山王下遺跡は、君津市三田に所在し、JR久留里線小櫃駅の北約0.5km地点にある。小櫃川中流域の右岸の段丘上に位置し、標高は約40m前後である。JR久留里線を境に東側丘陵沿いに宅地があり、西側には水田が広がる。埋蔵文化財は東西の丘陵沿いに分布が見られるが、調査例は少く様相は明らかではない。

発掘調査がされた周辺の遺跡をみると、9. 寺ノ台遺跡⁽¹⁾では縄文時代草創期の集石遺構が1基確認され、他には、弥生時代や奈良・平安時代、中世の遺物が出土している。14. 戸崎城山遺跡⁽²⁾は、縄文時代から古墳時代にかけての包蔵地と前方後円墳6基を含む100基以上で構成される戸崎古墳群、そして中世に築城された戸崎城跡を包括する複合遺跡で、各種開発により31回の調査が実施されている。これまでの調査では、弥生時代の方形周溝墓、古墳時代中期、奈良時代の竪穴住居跡、平安時代の方形区画溝・溝状遺構、中世の土坑墓を検出している。古墳は、35基の調査が実施され、多くは6世紀代の後期古墳であることが分かった。また、小櫃地区には、数多くの古墳が群集して分布しており、350基を超える古墳が確認されている。

註（1）『君津市内遺跡群確認調査報告書』1990 君津市教育委員会

（2）『祝崎古墳群／戸崎城山遺跡発掘調査報告書』1984 財団法人君津都市文化財センター

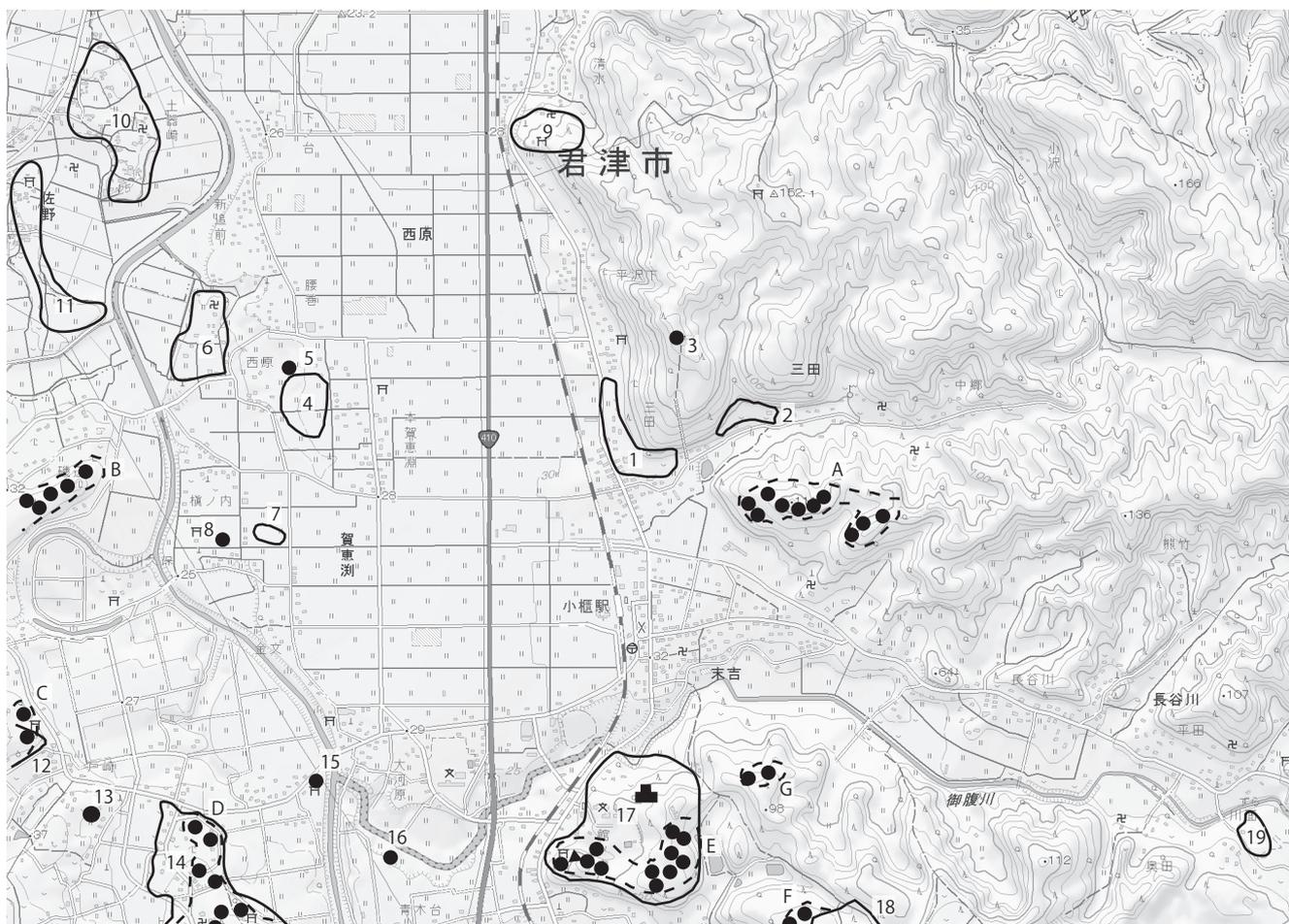
『平成2年度君津市内遺跡発掘調査報告書』1991 君津市教育委員会

『戸崎城山遺跡C地点』1993 財団法人君津都市文化財センター

『平成4年度君津市内遺跡発掘調査報告書』1993 君津市教育委員会

『千葉県文化財センター年報 No. 19-平成5年度-』1994 財団法人千葉県文化財センター

『平成5年度君津市内遺跡発掘調査報告書』1994 君津市教育委員会



- | | | | | |
|------------------|-----------|-------------|------------|-----------------|
| 1. 山王下遺跡 | 2. 出戸遺跡 | 3. 三田浅間神社古墳 | 4. 大坪遺跡 | 5. 大坪塚 |
| 6. 寺屋敷遺跡 | 7. 槇ノ内遺跡 | 8. 槇ノ内塚 | 9. 寺ノ台遺跡 | 10. 土器崎遺跡(木更津市) |
| 11. 南台ノ前遺跡(木更津市) | 12. 追場遺跡 | 13. 下台古墳 | 14. 戸崎城山遺跡 | 15. 森下古墳 |
| 16. 芝塚 | 17. 館ノ内城跡 | 18. 上原遺跡 | 19. 川面遺跡 | |
| A. 萩野台古墳群 | B. 脇原古墳群 | C. 峯古墳群 | D. 戸崎古墳群 | E. 白山神社古墳群 |
| F. 上新田古墳群 | G. 長谷川古墳群 | | | |

第5図 山王下遺跡2周辺の遺跡(1:25,000)

『戸崎城山遺跡M地点』1994 財団法人君津郡市文化財センター
『平成6年度君津市内遺跡発掘調査報告書』1995 君津市教育委員会
『平成7年度君津市内遺跡発掘調査報告書』1996 君津市教育委員会
『平成8年度君津市内遺跡発掘調査報告書』1997 君津市教育委員会
『平成12年度君津市内遺跡発掘調査報告書』2001 君津市教育委員会
『平成15年度君津市内遺跡発掘調査報告書』2004 君津市教育委員会
『平成16年度君津市内遺跡発掘調査報告書』2005 君津市教育委員会
『平成17年度君津市内遺跡発掘調査報告書』2006 君津市教育委員会
『平成19年度君津市内遺跡発掘調査報告書』2008 君津市教育委員会
『戸崎城山遺跡Y地点』2008 君津市建設部・君津市教育委員会
『平成21年度君津市内遺跡発掘調査報告書』2010 君津市教育委員会
『平成23年度君津市内遺跡発掘調査報告書』2012 君津市教育委員会

『戸崎城山遺跡 28 地点』 2013 君津市教育委員会

『平成 28 年度君津市内遺跡発掘調査報告書』 2017 君津市教育委員会

『令和元年度君津市内遺跡発掘調査報告書』 2020 君津市教育委員会

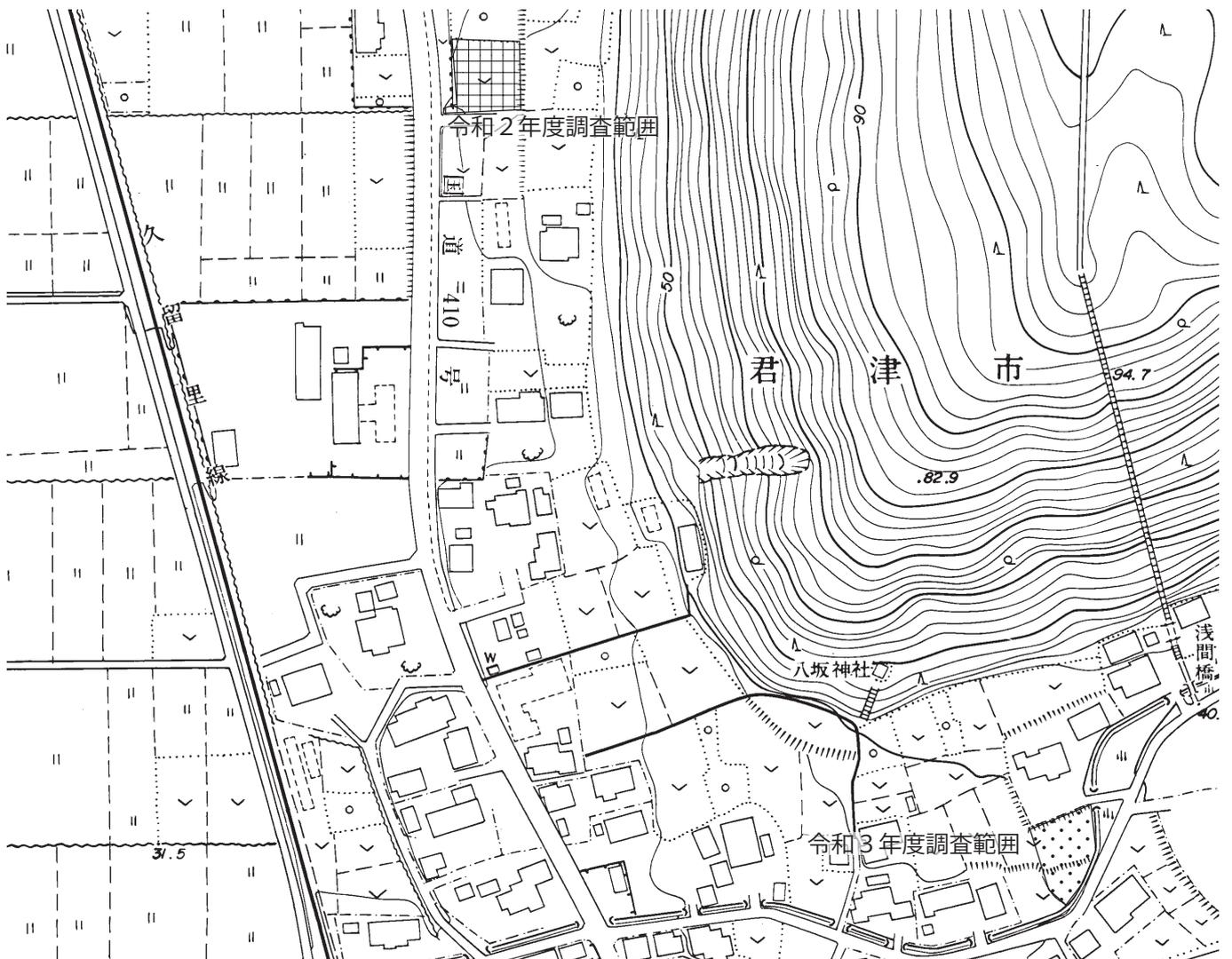
参考文献

『千葉県埋蔵文化財分布地図（4）－君津・夷隅・安房地区（改訂版）－』 2000 千葉県教育委員会

3 遺跡の概要（第6図）

山王下遺跡は、古墳時代の包蔵地として周知の遺跡である。調査例はほとんどなく、詳細は不明な部分が多い。令和2年度に初めて調査を実施した⁽¹⁾。その結果、遺構は検出されなかったが、弥生土器が出土した。このことから山王下遺跡で弥生時代の遺構が検出する可能性を指摘している。

註（1）『令和2年度君津市内遺跡発掘調査報告書』 2021 君津市教育委員会

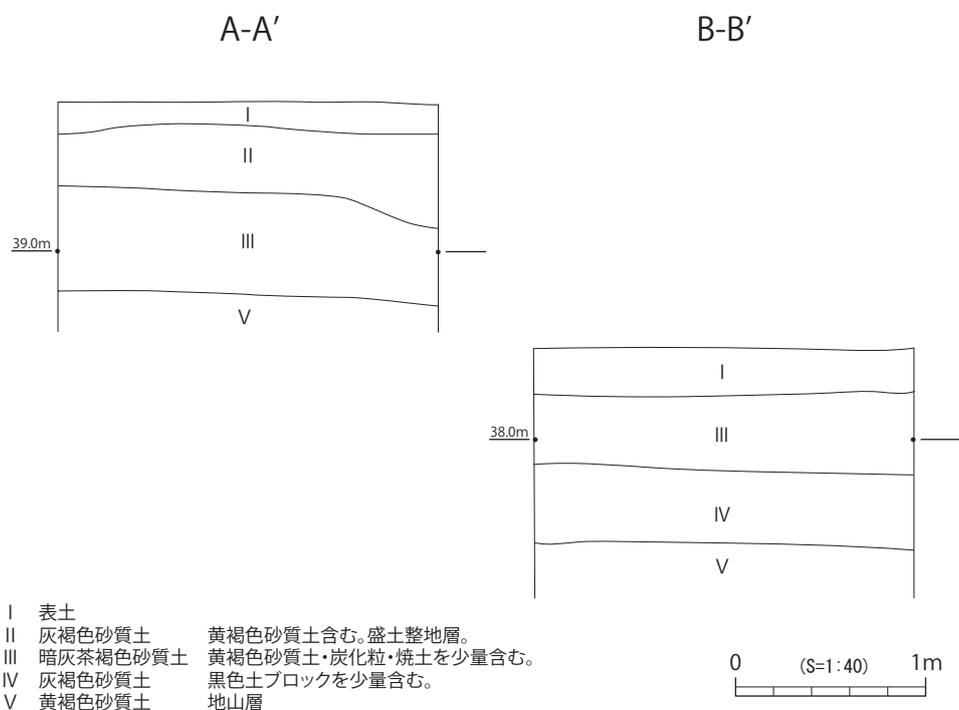


第6図 山王下遺跡2調査区位置図 (1 : 2,500)

4 調査の方法（第7・8図）

確認調査は対象地内における遺構の分布と種別を把握するため、対象地 569.28 m² にトレンチを 8 本設定した。調査区域の現状は荒蕪地である。調査を実施するにあたり、公共座標に基づく基準点測量は専門業者が行い、この杭を用いて現地での平面図・断面図等の実測作業を行った。写真撮影は小型（35mm）カメラを使用し、カラーリバーサルフィルムを使用した。遺構確認面までの表土を重機で除去した後、鋤簾を用いて人力により遺構検出作業を行った。基本層序は、8 T 東壁（A-A'）と 4 T 北壁（B-B'）で確認し、現地表面から確認面までは 0.8～1.0 m である。地山層は黄褐色砂質土（V 層）である。

調査の結果、弥生時代の溝跡・土坑、古墳時代の土坑が検出されたため、事業者と市教育委員会生涯学習文化課とで再度協議を行い、埋蔵文化財をどうしても保存することができない 67.9 m² の本調査を行うこととした。遺構確認面までの表土は重機により除去し、遺構検出作業と覆土の掘り下げは人力で行った。出土した遺物は遺構ごとに取り上げた。写真撮影は小型（35mm）カメラを使用し、カラーリバーサルフィルムを使用した。調査終了後は重機により排土を埋め戻して原状復帰し、現地作業を終了した。

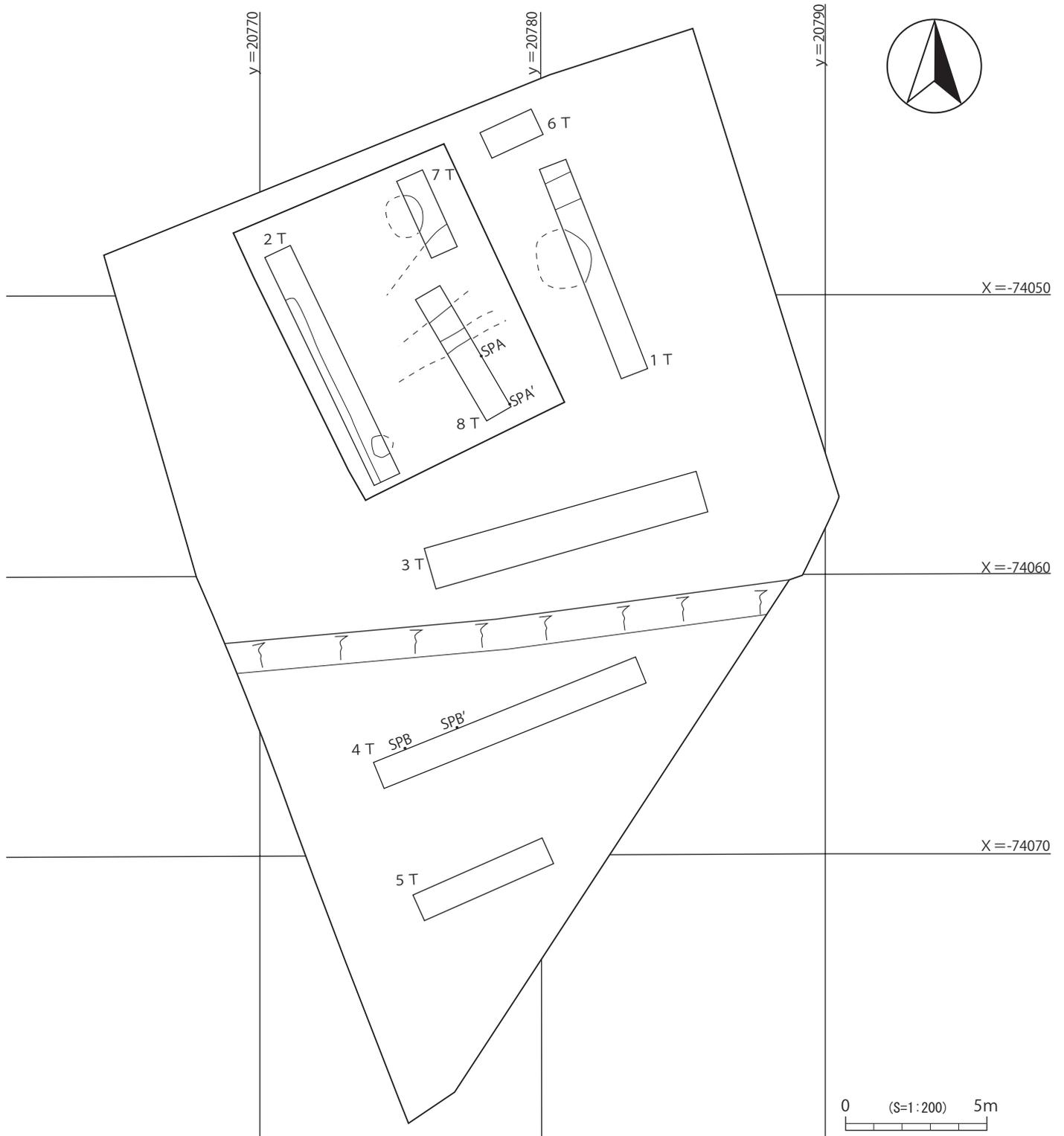


第7図 山王下遺跡2基本土層図

5 調査成果

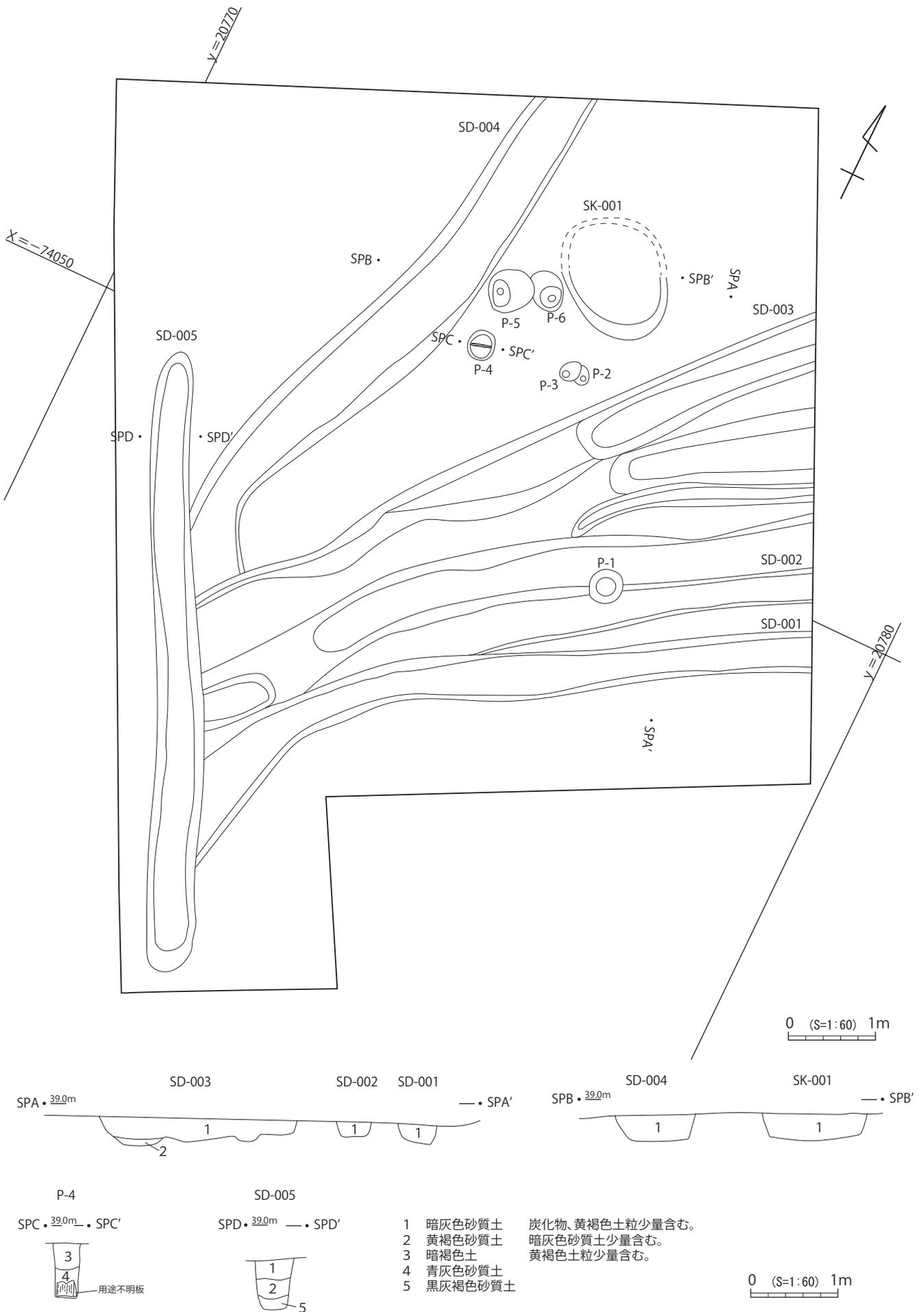
確認調査（第8図）

- 1 T 遺構確認面までの深さは、0.9 m である。弥生時代溝跡 1 条、古墳時代土坑 1 基を検出した。
- 2 T 遺構確認面までの深さは、1.0 m である。弥生時代溝跡 1 条・土坑 1 基を検出した。
- 3 T 遺構確認面までの深さは、1.0 m である。遺構は検出されなかった。
- 4 T 遺構確認面までの深さは、1.0 m である。遺構は検出されなかった。
- 5 T 遺構確認面までの深さは、1.0 m である。遺構は検出されなかった。



第8図 山王下遺跡2確認トレンチ配置図

- 6 T 遺構確認面までの深さは、1.1 mである。遺構は検出されなかった。
- 7 T 遺構確認面までの深さは、1.0 mである。弥生時代溝跡1条、土坑1基を検出した。
- 8 T 遺構確認面までの深さは、1.0 mである。弥生時代溝跡2条を検出した。



第9図 山王下遺跡2 遺構実測図

本調査（第9図）

溝跡

SD-001

重複関係 SD-001 = SD-002 = SD-005

規模・形態・構造 幅 0.5 ～ 0.9 m、深さ 0.3 m、検出部分の長さは 7.7 m。南―北東方向に弧状に走る溝で、断面形はU字状である。

遺物 弥生土器が出土した。小片のため図示し得るものはない。

SD-002

重複関係 SD-001 = SD-002 = SD-005 → P-1

規模・形態・構造 幅 0.35 ～ 0.6 m、深さ 0.15 m、検出部分の長さは 6.5 m。南―北東方向に弧状に走る溝で、断面形は逆台形状である。

遺物 弥生土器が出土した。鉢などが含まれる。

SD-003

重複関係 SD-003 = SD-004 = SD-005

規模・形態・構造 幅 0.7 ～ 2.2 m、深さ 0.15 ～ 0.4 m、検出部分の長さは 7.7 m。南西―北東方向に走る溝で、北東側の底面に掘り込みをもち、南西側の断面形はU字状である。

遺物 弥生土器が出土した。甕などが含まれる。

SD-004

重複関係 SD-004 = SD-003 = SD-005

規模・形態・構造 幅 0.55 ～ 0.96 m、深さ 0.3 m、検出部分の長さは 6.5 m。南―北方向に蛇行して走る溝で、断面形は逆台形状である。

遺物 弥生土器が出土した。鉢などが含まれる。

SD-005

重複関係 SD-001 = SD-003 = SD-004 = SD-005

規模・形態・構造 幅 0.45 ～ 0.6 m、深さ 0.4 ～ 0.6 m、検出部分の長さは 7.2 m。南東―北西方向に走る溝で、断面形は逆台形状である。

遺物 弥生土器が出土した。鉢・甕・台付甕などが含まれる。

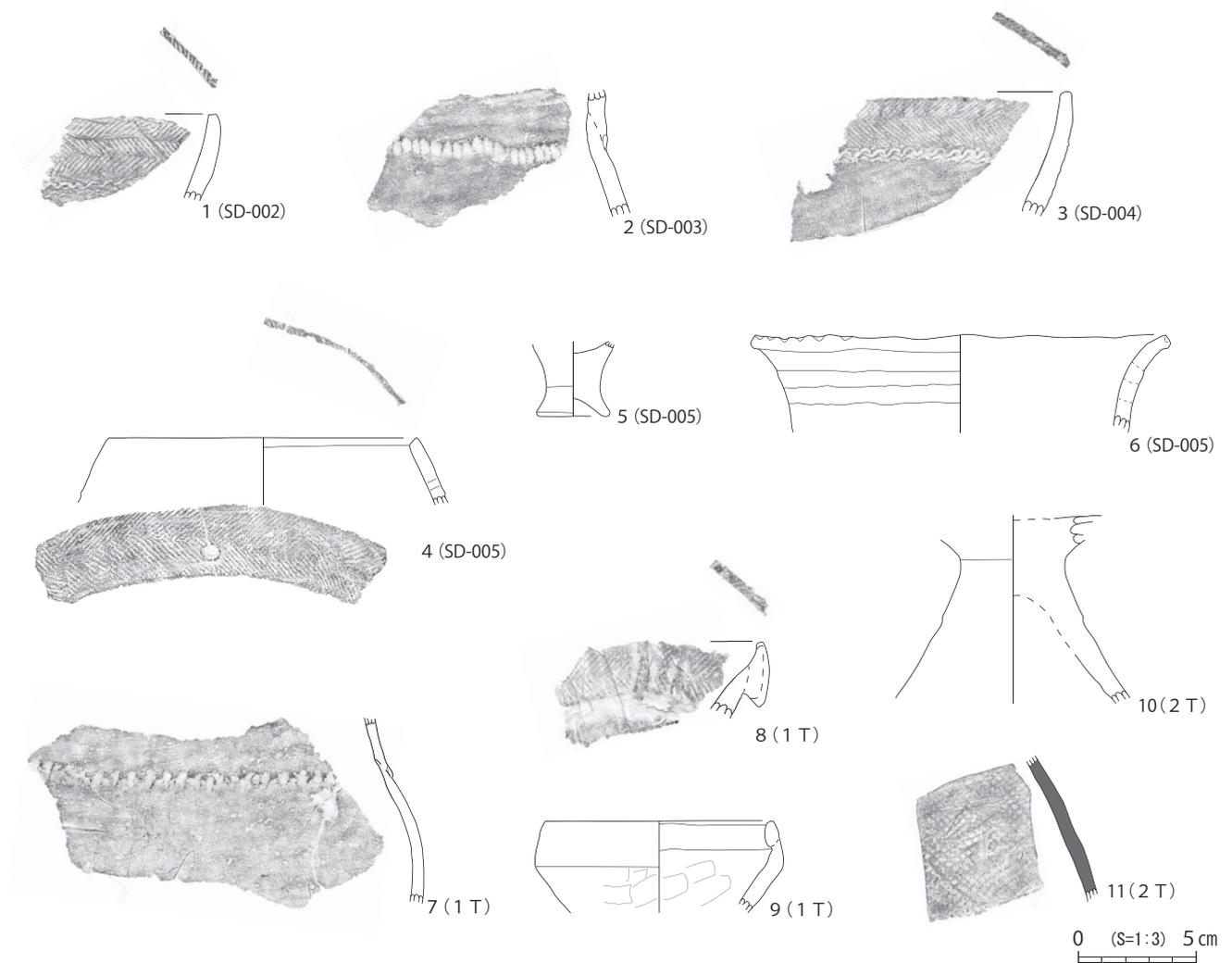
土坑

SK-001

重複関係 なし

規模・形態・構造 検出部分の長軸 1.2 m、検出部分の短軸 1.0 m、深さ 0.3 m。平面形は楕円形が推定できる。断面形は逆台形状である。

遺物 小片のため図示し得るものはない。



第 10 図 山王下遺跡 2 出土遺物実測図

ピット

P-1

重複関係 SD-002 → P-1

規模・形態・構造 直径 0.4 m、深さ 0.1 m。平面形は円形である。断面形はU字状である。

P-2

重複関係 P-2 → P-3

規模・形態・構造 長軸 0.25 m、検出部分の短軸 0.15 m、深さ 0.18 m。平面形は楕円形である。断面形は逆台形状である。

遺物 小片のため図示し得るものはない。

P-3

重複関係 P-2 → P-3

規模・形態・構造 長軸 0.27 m、短軸 0.2 m、深さ 0.2 m。平面形は楕円形である。断面形はU字状である。

遺物 小片のため図示し得るものはない。

P-4

重複関係 なし

規模・形態・構造 直径 0.35～0.4 m、深さ 0.65 m。平面形は円形である。断面形は箱状である。用途不明の板材が中央に垂直に立てた状況で検出された。

遺物 小片のため図示し得るものはない。板材（高さ 0.15 m、幅 0.25 m、厚み 0.01 m）が含まれる。

P-5

重複関係 P-6 → P-5

規模・形態・構造 長軸 0.55 m、短軸 0.4 m、深さ 0.42 m。平面形は楕円形である。断面形はU字状である。

遺物 小片のため図示し得るものはない。

P-6

重複関係 P-6 → P-5

規模・形態・構造 長軸 0.5 m、短軸 0.35 m、深さ 0.27 m。平面形は楕円形である。断面形はU字状である。

遺物 小片のため図示し得るものはない。

出土遺物（第 10 図）

出土遺物の多くは弥生土器片である。特に 1 T から多くの土器が出土した。

1 は弥生土器鉢の口縁部片である。調整は口唇部斜縄文。内面ミガキ。外面羽状縄文を施文、その下方に S 字結節縄文を施す。内面及び無文部に赤彩。焼成は不良。色調はにぶい黄橙色、赤彩部赤色。胎土は白色粒、粗い赤色粒、砂粒を含む。2 は弥生土器甕の胴部片である。調整は内部ヘラナデ。外面ヘラケズリ、頸部有段部に縄文原体を押捺。焼成は良好。色調はにぶい黄色。胎土は白色粒、小石、石英を含む。3 は弥生土器鉢の口縁部片である。調整は口唇部斜縄文。内面ミガキ。外面羽状縄文を施文、その下方に S 字結節縄文を施す。内面及び無文部に赤彩。焼成はやや不良。色調はにぶい橙色、赤彩部赤色。胎土は白色粒、砂粒、小石を含む。4 は弥生土器鉢の口縁部 1/4 の遺存である。復元口径 13.0 cm、遺存高 3.0 cm。調整は口唇部斜縄文。内部ヘラナデ。外面羽縄文を施し、穿孔。焼成は良好。色調は浅黄色。胎土は砂粒、赤色粒、石英を含む。5 は弥生土器台付甕か鉢の脚部分のみの遺存である。底径 3.0 cm、遺存高 3.1 cm。調整は内外面ともにナデ。焼成は良好。色調はにぶい黄色。胎土は白色粒、小石、石英を含む。6 は弥生土器輪積み甕の口縁部から頸部 1/4 の遺存である。復元口径 17.7 cm、遺存高 4.2 cm。調整は口唇部指頭による押捺。内面は摩耗激しく不明だが、一部でヘラナデ。外面輪積み痕。焼成は不良。色調は橙色。胎土は粗く赤色粒、小石を含む。7 は弥生土器甕の胴部片である。調整は内部ヘラナデ。外面ヘラケズリ、頸部有段部に縄文原体を押捺。焼成はやや良好。色調は橙色。胎土は赤色粒、白色粒、小石を含む。8 は弥生土器壺の口縁部片である。調整は口唇部斜縄文。外面折り返し口縁、折り返し部羽状縄文を施文し、棒状浮文を施す。焼成はやや良好。色調はにぶい黄橙色。胎土は砂粒、石英、小礫、白色粒を含む。9 は手づくね土器で口縁部から体部 1/3 の遺存である。復元口径 9.6 cm、器高 4.0 cm。調整は内面口縁部内側に折り返し。内外面ともにヘラナデ。焼成はやや不良。色調は浅黄橙色。胎土は白色粒、赤色、砂粒を含む。10 は土師器高坏で脚部上部のみの遺存である。遺存高 8.0 cm。摩耗激しく調整不明。焼成は不良。色調はにぶい橙色。胎土は粗い赤色粒、白色粒、砂粒を含む。11 は須恵器甕か壺の胴部片である。外面格子状タタキ。焼成は良好。色調は灰色。胎土は小石、黒色粒を含む。

6 まとめ

令和2年度に実施した調査成果と同様に弥生時代と古墳時代の遺構・遺物を検出した。確認面の上層に遺物が集中して出土する層があり、後世の耕作に伴う造成などによる混入の可能性が考えられる。これらの遺物は遺構から出土したものも含めてほとんどは弥生土器である。調査が進むことで山王下遺跡の性格が明らかになっていくだろう。



1. 調査前風景 (北→)



2. 本調査表土除去 (東→)



3. SK-001・002完掘 (南東→)



4. SK-003完掘 (南→)



5. 本調査範囲完掘 (南西→)



6. 作業風景 (北西→)



7. 第4図



8. 第4図5

図版2 山王下遺跡2



1. 調査前風景（北東→）



2. 重機による3T掘削状況（南西→）



3. 本調査範囲遺構確認状況（南西→）



4. P4木材検出状況（南東→）



5. 本調査範囲A-A'（南西→）



6. 遺構完掘状況（南西→）



7. 第10図



8. 第10図-5

報告書抄録

ふりがな	れいわさんねんど ちばけん きみつしなしいせきはっくつちょうさほうこくしょ							
書名	令和3年度 ー千葉県ー 君津市内遺跡発掘調査報告書							
副書名	堀の腰遺跡 山王下遺跡2							
巻次								
シリーズ名								
シリーズ番号								
編著者	曾我真実子							
編集機関	君津市教育委員会							
所在地	〒299-1192 千葉県君津市久保2丁目13番1号							
発行年月日	西暦2022年(令和4年)3月25日							
ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地	コード		世界測地 系北緯	世界測地系 東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
ほりのこしいせき 堀の腰遺跡	ちばけんきみつしとぎき 千葉県君津市戸崎 2612番48	12225	KT084	35° 18' 49"	140° 02' 26"	[確認] 2021年12月13日	41.3 /496 m ²	個人住宅 建設
						[本調査] 2021年12月15日～ 2022年1月12日	19.15 m ²	
さんのうしたいせきに 山王下遺跡2	ちばけんきみつしさんだ 千葉県君津市三田 420番1、419番・ 420番2合併1	12225	KT083	35° 19' 56"	140° 03' 42"	[確認] 2022年1月17日～ 2022年1月21日	55 /569.28 m ²	個人住宅 建設
						[本調査] 2022年1月31日～ 2022年2月10日	67.9 m ²	
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物	特記事項		
堀の腰遺跡	包蔵地	縄文時代、 古墳時代	古墳時代土坑4基・ピット2基		縄文土器、弥生土 器、古墳時代土師 器	既存の踏査成果のとおり縄文時 代と古墳時代の遺構・遺物を検 出した。		
山王下遺跡2	包蔵地	弥生時代、 古墳時代	弥生時代溝跡5条・ピット6基、古墳 時代土坑1基		弥生土器、古墳時 代土師器・須恵器	古墳時代の包蔵地となっていた が、弥生土器が出土した。		

令和4年3月18日 印刷
令和4年3月25日 発行

令和3年度
ー千葉県ー
君津市内遺跡発掘調査報告書
堀の腰遺跡
山王下遺跡2

発行 君津市教育委員会
千葉県君津市久保2丁目13番1号
印刷 有限会社アドメイクス
千葉県木更津市清見台東2-19-16